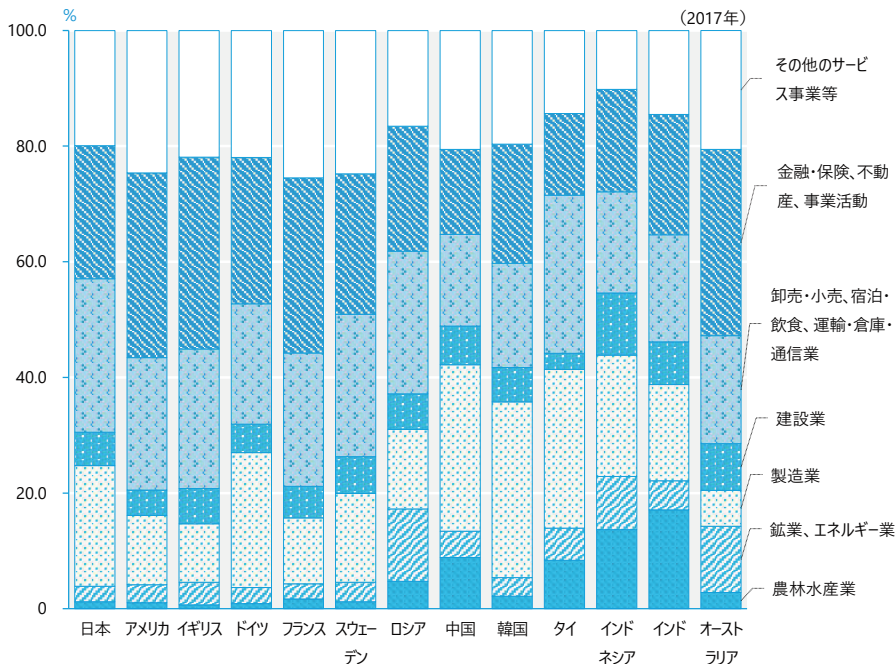


1-2 経済活動別国内総生産（構成比）



関連表 p.36 「第1-6-2表 経済活動別国内総生産（構成比）」

(注) アメリカ、ロシア、中国、韓国、タイは2016年。

グラフは、国内総生産(総付加価値、生産者価格表示)における経済活動を構成別により色分けしたものである。この構成比によって、各国における産業構成比が把握できる。

産業構造の変化を長期的にみると、所得の上昇によって、第1次産業から第2次産業、さらに第3次産業へと変化することが知られている(ペティー・クラークの法則)。実際、主要先進国の産業構成は、第3次産業の割合が高くなっている。そうしたなかで、主要先進国のうち日本、ドイツ、韓国などは、相対的に製造業の割合が高いという特徴がある。他方、インドネシアなどの発展途上国をみると、農林水産業、製造業の割合が高い。